

はじめに

この度は京都大学藤子不二雄同好会(京大F同)の会誌を手にとっていただきありがとうございます。……っていうのも言ってみればこの手の会誌の巻頭言における常套句みたいなものなので、見飽きたという人もいるかもしれません。でもやっぱりどうしてもここで謝意を述べておきたいと思うので、お許してください。

そもそも、私は京都大学に藤子不二雄同好会なんてサークルがあるとは知らずに京都大学に入学したのですが、サークル紹介冊子を見ていて藤子不二雄同好会を見つけたときは驚いたものです。そんなマニアックなサークルがあるのか、と思いました(笑)でも京大F同に入って、いくつかわかってきたことがあります。

まず、藤子の森は思っていたよりずっと広く深かった。大海を知らない井蛙でした……まあ今は違うとは決して言えませんが、自分の知らない作品なんていくらでもあるとし、下手したら一生かかってもそのすべては読みきれないかもしれません。本人の手によるものに限らなければ今も増え続けていますし。でもまあそれが楽しみにもなり得ると信じていますし、京大F同は自分のようなライトな人でも藤子好きなら大歓迎のサークルであってほしいなあ、とこっそり思っています。

それから、藤子の森には、迷い込んで抜け出せなくなっている人も含めて、思っていたよりずっとずっと多くの人がいる。京大F同の周りを考えても、会員だけでなく、ブログを読んでくださったり、Twitterを見てくださったり、こうして会誌を手にとってくださったり、本当に様々な形で関わってくださる方々がいます。正直、毎年会誌を本当にたくさんの方が手に取ってくださってびっくりするぐらいです。そして京大F同以外にも、藤子ファンはあちこちにいるということが最近になってようやくわかってきました。その集まりの一つにおいて会長という立場を経験できたのも大きいと思います。藤子不二雄同好会がマニアックなサークルだという認識も改めたほうが良いのかもしれないね。

なんだか自分の話ばかりになってしまいました……まあこの後のページには藤子作品に興味を持ってもらえるような素敵な文章の数々が！……あるはずですよ(笑)

それでは、最後になりますが、この会誌に関わってくださったすべての方に改めて感謝しつつ、読んでくださった方に楽しんでもらえることを願って、この会誌のはじめの文章を終えたいと思います。

今後とも京大F同を“あたたかい目”で見守ってくださると嬉しいです。